

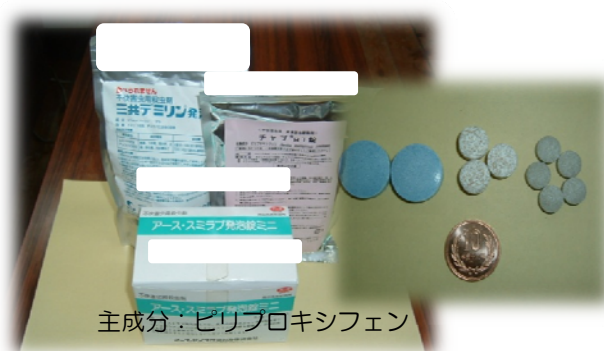
町内で行う衛生活動（蚊駆除対策）

自治会・町内会が行う蚊駆除対策について、保健所では、安全性や環境汚染防止の観点から、幼虫の駆除を推奨しています。広範囲に飛び立った成虫に、大量の粉剤や油剤を散布して駆除するよりも、流れの悪い側溝や、雨水ます、その他「溜まり水」等に発生する幼虫を駆除する方が効率的と考えるからです。

この場合、以前主流であった有機リン系殺虫剤（乳剤を水で希釈して散布する）より、安全性に優れ、効果が長期に渡って持続する**昆虫成長制御剤（IGR）**を使用することをお勧めしています。

昆虫成長制御剤（IGR）とは

- 幼虫（ボウフラ）の脱皮を阻害し、成虫にさせない薬剤です。
- ヒト、動物、魚類に対し安全性に優れています。
- 錠剤になっており、必要量を水域に投入すると約1ヶ月間、蚊の発生を抑えることができます。
- 特別な機具も必要なく保管も容易です。
- 用途に応じた各種薬剤が用意されています。



町内における投入場所の一例

雨水ます



流れの悪い側溝



水路等



※雨水ますは1錠投入。側溝、水路等は長さ、巾、水深を測り、投入薬剤量を算出します。

薬剤の購入補助について

☆昆虫成長制御剤（IGR）は「新潟市衛生害虫駆除用薬剤購入費補助制度」の対象薬剤です。補助金の交付を受けるには、所定の用紙による申請手続きが必要となります。申請用紙はお住まいの区役所にあります。また、新潟市のホームページよりダウンロードができます。

☆補助金交付は、自治会・町内会単位で購入した薬剤が対象となります。薬剤は個人でも購入することは可能ですが、補助金の対象とはなりません。

☆薬剤散布、補助金の交付に関してご不明な点は、保健所環境衛生課までお問い合わせください。

一斉清掃・定期清掃を行う場合の注意事項

★粉剤、油剤等を散布する場合は、周囲の環境や状況を把握し、決められた用法・用量を厳守して作業を行ってください。（特に有機リン系の殺虫剤は、環境や人体に与える影響が大きいので、取り扱いには十分注意してください。）

★すくい上げた泥に石灰や有機リン系乳剤の散布は不要です。

（自然と乾燥しますので泥の中にいる幼虫も死滅します。）

★清掃後の側溝に乳剤の散布は不要です。

（泥がなくなれば流れが良くなり、ボウフウ等の幼虫も発生しません。）



自治会長・町内会長および衛生担当者へのお願い

雨水ます、側溝、水路等は蚊の発生源の一部にすぎません。特に、保健所に駆除相談が多く寄せられるヒトスジシマカは、家のまわりにある「**ごくわずかな「溜まり水」**」から発生します。

殺虫剤だけに頼るのではなく、不要な「溜まり水」をなくすることが蚊の発生防止につながります。町内の皆さんにも、蚊の発生源などについて周知していただくようご協力をお願いします。

ヒトスジシマカ成虫



さなぎと幼虫



発生源
の一例

古タイヤ



ビニールシートの窪み



放置された容器類



植木鉢の受け皿



雨どいの目詰まり



空き缶等



〒950-0914

新潟市中央区紫竹山3丁目3番11号

（新潟市総合保健医療センター3F）

新潟市保健所環境衛生課 生活環境係

☎ 025-212-8269（直通）

ホームページ で検索

